

番号	自治会名	こん談事項	こん談会開催時の回答内容	回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
1	本梅町	「かめおかドリームサポート」を本梅町で実践 ①担い手の必要性 ②職住接近 地元雇用がないと就学で外に出てしまった人は戻らない。空き家のオフィス活用等によりI・Uターン可能な、また、企業が入ってきやすい環境づくりをしたい。	空家を探しておられる方は160名ほどなのに対し、空家登録が少ないのが現状です。情報提供や物件所有者の同意獲得等について協力をお願いいたします。また、京都府用地バンクによる企業誘致や企業ガイドブック作成によるPRにつなげてまいります。これからも用地情報提供をお願いいたします。	産業観光部長	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
2	本梅町	「かめおかドリームサポート」を本梅町で実践 ⑤未来営農 営農組織基盤の構築がなければ未来もない。人材育成や特産品創出等を行わなければいけない。	集落営農の計画として協力農場プランがあり、随時見直しにより計画の修正してもらい、実施時に協力させて頂きたいと思います。	産業観光部長	②実施予定	京力農場プランの見直しの際に適宜実施予定です。
3	本梅町	「かめおかドリームサポート」を本梅町で実践 ⑤未来営農 営農組織基盤の構築がなければ未来もない。人材育成や特産品創出等を行わなければいけない。	西部地域は新規就農者やものづくりをされる職人に人気があります。そういった人を受け入れるためにも京都府の移住促進特別区域に指定を受けていただき、さまざま補助金を利用されることを含めて検討いただければと思います。	市長公室長	③検討	移住促進特別区域内に移住をされた方が同一区域内で起業をされる場合、施設整備等に関する補助金(上限300万円 補助率2/3)を受けていただくことができます。 補助金の前提となります移住促進特別区域の指定を検討いただきますようお願い致します。
4	本梅町	【質問事項等】 鳥獣被害について 兵庫県丹波篠山市で実施しているようにサルGPSで得た移動情報を地元流すことは亀岡では可能か。鳥獣協議会はJAと連携できないのか。	現在、亀岡市でサルGPSは所有していないが、情報の流し方を検討したいと思います。	産業観光部長	⑤困難	こん談会での回答のとおりです。
5	本梅町	①国道477号通学歩道の安全確保 国道477号は幹線道路で、バイパス開通で交通量が増加している。通学歩道にガードレールを設置してほしい。	昨今増加している通学路での事故を防ぐためにも安全対策が必要となります、府民協働型インフラ保全事業の活用が可能なので、こちらを活用していただければと考えます。	まちづくり推進部長	②実施予定	今年度、府民協働型インフラ保全事業で提案いただきましたガードレール設置については、京都府で検討された結果、安全対策として、鋼製品ポストコーンの設置を実施することで一部採択され、現在準備を進めていただいております。
6	本梅町	①国道477号通学歩道の安全確保 国道477号は幹線道路で、バイパス開通で交通量が増加している。通学歩道にガードレールを設置してほしい。	「亀岡市通学路交通安全対策プログラム」を策定しておりますので、防護柵設置に関する記載を検討してまいります。京都府に対しては安全対策を要望していきます。	教育部長	③検討	こん談会開催時の回答のとおりです。

番号	自治会名	こん談事項	こん談会開催時の回答内容	回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
7	本梅町	②本梅川の浚渫 昨年は災害時に河川被害が多発したが、多年の土砂堆積が一因と考えるため、災害防止に向けた取り組みをお願いしたい。	現在京都府による年次的な浚渫計画はないと聞いていますが、必要に応じた対応は必要です。浚渫が必要な状況について現場確認を行うとともに、京都府にバトロール強化をお願いしてまいります。本件は府の保全事業に提案いただいております、現在審査中なので、引き続きご提案いただければ、本市も働きかけてまいります。	まちづくり推進部長	⑥その他	府民協働型インフラ保全事業で御提案いただいた浚渫については、土砂堆積が少なく、治水上の危険が比較的小さいことから今回は不採択となりました。
8	本梅町	主要道路、河川等の整備について ③ 苔川の浚渫 昨年度、災害のために護岸復旧工事を完了したが、上流数十メートルの土砂堆積により工事箇所への堆積が予想されるため対応をお願いしたい。	治水対策において適切な流下能力の確保は重要であります、市内各所から多数要望いただいているため、緊急度の高い箇所から実施していくものです。苔川は現段階で土砂の量は多いといえず、人家への被害も少ないと考えているため、経過観察を続けてまいります。	まちづくり推進部 事業担当部長	②実施予定	今後、現地調査し、適切な対応を実施していきたいと考えています。
9	本梅町	主要道路、河川等の整備について ④ 側溝の新設 昨年度の土砂災害で人家に被害があった箇所について、側溝がなく、山水が道路を超えて家屋へ流入するのを防ぐために側溝の新設をお願いしたい。	市内各町から道路維持修繕工事の要望があり、車両や歩行者の通行に危険があるなど、自治会からの優先順位により順次実施しているところです。当該箇所については、今後、山からの流量や排水ルート、側溝設置位置等について自治会と協議調整してまいります。	まちづくり推進部 事業担当部長	②実施予定	当該箇所について、今年度、治山事業が実施され工事車両の通行等により施工が困難であり、京都府と調整を行い、来年度以降の実施に向けて計画を行なってまいります。
10	本梅町	主要道路、河川等の整備について ⑤ 街灯の設置 中野区において街灯がないため、夜道通行に不安がある。安全確保に向けた取り組みをお願いしたい。	毎年度市内各自治会から多数設置要望があり、通学路や公道への設置を最優先としています。区内で設置個所と優先順位の決定をお願いしたいと思います。	まちづくり推進部 事業担当部長	①実施	当該地区の防犯灯については、2月に設置を行いました。
11	本梅町	主要道路、河川等の整備について ⑥ 街灯の設置 国道477号線の歩道工事に伴い安全が確保のため、井出区内から東加舎区内に至る現工事箇所へ街灯設置をお願いしたい。	毎年度市内各自治会から多数設置要望があり、通学路や公道への設置を最優先としています。区内で設置個所と優先順位の決定をお願いしたいと思います。	まちづくり推進部 事業担当部長	③検討	こん談会での回答のとおりです。
12	本梅町	主要道路、河川等の整備について ⑦ 国道477号線路面改良 昨年より改良工事が実施されているが、大型車両の通行が多く、路面状態により騒音と振動が発生し、住民の精神的負担となっているので改善をお願いする。	国道477号については、平成27年度と30年度京都府の事業において一部採択で損傷個所の路面舗装が実施されました。今後とも京都府の事業(府民協働型インフラ保全事業)を活用すべく地元から要望していただき、市もそれに合わせて働きかけてまいります。	まちづくり推進部長	②実施予定	府民協働型インフラ保全事業(2次募集)で御提案いただいた舗装補修、騒音対策については採択され現在準備を進めていただいております。

番号	自治会名	こん談事項	こん談会開催時の回答内容	回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
13	本梅町	主要道路、河川等の整備について ⑧ 横断歩道・「とまれ」標識の設置 井出区内の天王亀岡線と国道477号線接続箇所の市道で、477号線側に一旦停止標識も横断歩道もなく、安全確認せずに通過する車両が多く危険を感じているので、通学路でもある当箇所の安全確保をお願いしたい。	横断歩道や一旦停止等の交通規制に係るものは京都府公安委員会の管轄となります。 それ以外の安全対策については当箇所が府道と市道の交差点であるため、京都府土木事務所とも連携が必要となります。地元からも京都府事業へ提案要望を行っていただきますようお願いします。	まちづくり推進部長	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
14	本梅町	主要道路、河川等の整備について ⑧ 横断歩道・「とまれ」標識の設置 井出区内の天王亀岡線と国道477号線接続箇所の市道で、477号線側に一旦停止標識も横断歩道もなく、安全確認せずに通過する車両が多く危険を感じているので、通学路でもある当箇所の安全確保をお願いしたい。	今後も引き続き、各関係機関と連携をとりながらハード・ソフト両面から通学路の安全対策について検討してまいります。	教育部長	③検討	こん談会開催時の回答のとおりです。
15	本梅町	ふるさとバスの利便性向上 乗客の降車について、高齢者のバス停までの移動負担軽減策として、バス停以外での降車が可能であるか。	昨年度の地域こん談会におきまして「バス停以外の場所でも乗降が可能になるよう特別な配慮を」という要望をいただき、その際に「フリー乗降は可能ですが、安全性の確保が最優先であり、関係機関と協議、研究していきます。」と回答したところです。 現在のところ、バスを運行している京阪京都交通と本梅町内において、フリー乗降の実施が可能な区間の選定に向け具体的な協議を進めているところです。 今後は警察等との協議を経て「フリー乗降区間」を設定することとなりますが、来年3月(JRのダイヤ改正に伴うバスダイヤの改正にあわせて)の運用開始を目標に取り組みを進めておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。	まちづくり推進部長	①実施	令和2年3月14日から本梅町内においてフリー乗降を開始しました。
16	本梅町	【質問事項等】 地域の交通について、デマンド交通が望ましいが、今後定年が上があればボランティアのなり手も高齢化する。生涯農業に従事する者も多いので、なり手が少ない。	昼間にボランティアでデマンド交通ができないかを含め、西部地区の共通課題として西部地域の自治会で集まってもらい意見交換会をやりたいと考えています。	市長 (市長公室) (まちづくり推進部)	①実施 ③検討	8月28日、本梅町、畑野町、宮前町、東本梅町の4町合同での「西部地域ブロックこん談会」を開催しました。